

「古窯（こよう）」

ゴールデンウィーク、家族で米沢ヘルツ探しの旅をしてきた高野です。江戸時代に住んでいた場所で家族写真を撮ったりしながら、米沢を巡りました。そして2泊3日で山形の3大温泉（銀山温泉、蔵王温泉、上山温泉）を制覇。

話題性という意味では銀山温泉がオススメ。大正ロマンあふれる街並みに、100年以上前にタイムスリップした気分に入れます。「鬼滅の刃」や「千と千尋の神隠し」の舞台にいるようです。また、蔵王は刺激の強いお湯で、樹氷やスキーでも人気の温泉地。

そんな中、一番知名度の低い上山（かみのやま）温泉が、私のお気に入りです。

宿泊したのは「古窯」という古〜いお宿。ここは昭和26年開業、「静かさだけが取り柄」という立地は今も変わりありません。

そんな観光資源のないところを、何故選んだかという、その旅館の女将、佐藤幸子さんが、米沢出身で亡父と同年の有名人だからです。NHKの『おんなは度胸』のモデルで、昭和4年生まれの96歳。今も現役と聞きましたが、宿泊時にはお目にかかれませんでした。

今でこそ100室以上ある大きなお宿ですが、創業時の部屋数は7つ。義母からピカピカの金庫と共に、「いざという時のために、女も仕事を持っていれば主人を助けて子供を育てることができる。この金庫に一銭のお金も入れないで渡すというのは、これが成功してもあなたのせい、失敗してもあなたのせい、やり甲斐があるというもの・・・」と言われて継いだのだとか。布団も揃ってなければ、食材を仕入れるお金もなく、女中さんに給料も払えない状況に「新しい金庫がとてもうらめしかった」そうです。

それでも女将の「おもてなし」の心が宿泊者に伝わり、多くの著名人に愛され続ける宿になっていくのです。

「古窯」の名前の由来は、敷地内から発掘された奈良時代の「須恵器の窯跡」から来ています。それにちなんで、ここに泊るとお皿（楽焼）に絵付けができるのです。夜に絵付けをするとチェックアウト時には焼き上がります。

そして館内には所狭しと有名人の書いた絵皿が飾られています。石原裕次郎や坂本九夫妻の感動的エピソードを見ると、「俺もここに飾ってもらえるような男になろう！」って思っています。

観光資源がなければ、楽焼体験を売ればいいじゃないかと言われているようです。どんな立地であろうと、建物や什器は古く洗練されてなくても、想いと工夫でなんとかなる！接客含め商売のヒントが沢山詰まったお宿に良い刺激を頂きました。

参考文献 「おかみ」佐藤幸子著

